

みずほCustomer Desk Report 2020/06/15号 (As of 2020/06/12)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	106.69
TKY 9:00AM	106.81	1.1290	120.61	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	107.55	1.1340	121.81	1.2577	0.6831
SYD-NY Low	106.59	1.1213	120.33	1.2653	0.6912
NY 5:00 PM	107.38	1.1256	120.88	1.2473	0.6800
NY DOW	25,605.54	477.37	日本2年債	-0.160	0.00bp
NASDAQ	9,588.81	96.08	日本10年債	0.010	▲1.00bp
S&P	3,041.31	39.21	米国2年債	0.194	▲0.57bp
日経平均	22,305.48	▲167.43	米国5年債	0.332	1.29bp
TOPIX	1,570.68	▲18.24	米国10年債	0.709	4.43bp
シカゴ日経先物	22,240.00	525.00	独10年債	-0.4400	▲2.55bp
ロンドンFT	6,105.18	28.48	英10年債	0.2060	1.00bp
DAX	11,949.28	▲21.01	豪10年債	0.9040	▲2.70bp
ハンセン指数	24,301.38	▲178.77	USDJPY 1M Vol	7.33	0.03%
上海総合	2,919.74	▲1.16	USDJPY 3M Vol	7.15	▲0.02%
NY金	1,737.30	▲2.50	USDJPY 6M Vol	7.53	▲0.04%
WTI	36.26	▲0.08	USDJPY 1M 25RR	-1.75	Yen Call Over
CRB指数	134.32	▲0.58	EURJPY 3M Vol	9.23	0.00%
ドルインデックス	97.32	0.59	EURJPY 6M Vol	9.24	0.07%

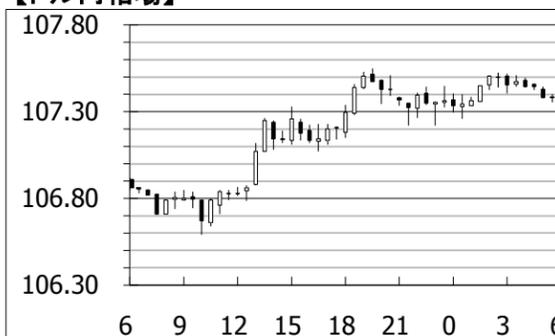
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
6月12日	13:30	日 鉱工業生産(前月比/前年比)・確報	4月 -9.8%/-15.0%	-
	15:00	英 鉱工業生産(前月比/前年比)	4月 -20.3%/-24.4%	-15.0%/-19.3%
	15:00	英 製造業生産(前月比/前年比)	4月 -24.3%/-28.5%	-15.6%/-19.9%
	18:00	欧 鉱工業生産(季調済/前月比)	4月 -17.1%	-18.5%
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド・速報	6月 78.9	75.0

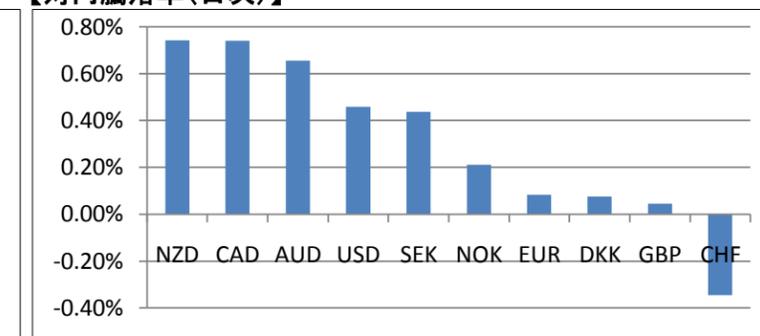
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
6月15日	11:00	中 小売売上高/固定資産投資/鉱工業生産(年初来前年比)	5月 -13.5%/-6.0%/-3.0%	-16.2%/-10.3%/-4.9%
	21:30	米 NY連銀製造業景気指数	6月 -30.0	-48.5
	23:00	米 カプラン・ダラス連銀総裁 講演	-	-
6月16日	01:30	米 デーリー・サンフランシスコ連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



東京 東京時間のドル円は106.81レベルでオープン。前日の米国株の大幅下落を受けてリスクオフの地合。日経株の下落やクロス円の下げもあり106.59まで下落。東京時間午前106円後半のレンジ内を上下したが、日経株が下げ幅を縮小する動きや米金利持ち直しを受けて、ドル円は反転上昇。週末を控えてショートカバーとみられる動きもあり107.33まで上昇。その後は伸び悩み、結局107.18レベルで海外時間に渡った。

ロンドン ロンドン市場のドル円は、107.18レベルでオープンし、前日から弱含んでいた欧州株式市場の主要指数が上昇に転じ、リスク選好的なドル買い・円売りが進んだ。107.35レベルでNYに渡った。ポンドは、1.2580レベルでオープン。朝方に英4月GDP速報値が前月比-20.4%と発表され、過去最大の落ち込みを記録したが、ポンド相場への影響は限定的だった。1.2621レベルでNYに渡った。(ロンドン・フリー 00531 444 179 マクルヒル)

ニューヨーク 海外市場のドル円は、前日の米株大幅安を受けてリスクオフの地合いが強まる中、106円台での上値重い推移でスタート。その後、日経平均株の下げ幅縮小と米株先物が上げ幅拡大を横目に円が売られ107.55まで上昇後、107.35レベルでNYオープン。朝方は外米NEC委員長が「ウイルス感染第2波は米国に見られず、対策で経済閉鎖はしない」と述べるも、市場の反応は限定的だった。107.22まで下落する場面もあったが、米株の堅調推移にサポートされ、この水準で下げ止まる。しかし、一時800ドル超のダウ平均が反落し、上昇分をほぼ打ち消し、円買いが先行するが、同時にリスクオフのドル買いも強まったことから、ドル円は107円台半ばの狭いレンジでもみ合い。午後米株の乱高下が続き、ダウ平均は一時マイナス圏に沈む場面もあったが、ドル買いと円買いが同時に進んだ結果、ドル円の値動きは限定的だった。一時107.52まで上昇するが、終盤にかけてドル買いが一巡したことから、小幅反落し、107.38レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは、1.1300手前でもみ合いでスタート。その後、欧州株の持ち直しにユーロ買いが強まり、「ドイツ政府がVAT減税に合意」との一部報道が伝わると1.1340をつける。買い一巡後、1.1300近辺まで反落し、1.1310レベルでNYオープン。朝方は1.1322まで上昇するが、その後、米株が上げ幅を縮小すると、ドル買いが加速し、1.1233まで急落。売り一巡後、米株の持ち直しを受けてドル買いが一巡し、1.1250近辺で振幅が続く。フロリダ州やテキサス州で感染者数の増加が続き、米国内での感染第2波が意識されたためか、午後は500ドル超反発したダウ平均がマイナス圏に沈み、リスクオフのドル買いが加速したことから1.1213をつける。終盤にかけてドル買いが一巡すると、買い戻しが入り1.1263まで上昇し、1.1256レベルでクロス。

【マーケット・インプレッション】 新型コロナウイルス後の世界秩序

新型コロナウイルス後の世界を考えたい。都市封鎖とかステイホームとか、極端な言い方をすれば経済的な自殺行為によって家計消費は停滞し、その影響は企業・社会・国家レベルでの経済活動に影響している。世界経済は先の大戦以来最悪の危機に直面していると指摘する学者もいる。多分経済だけに留まらず、この先の世界秩序にも多大な影響を及ぼすに違いない。そうすると中長期的に米中どちらが主導権を握っていくのかがより重要となってくると思う。コロナ禍以前の国家資本主義体制の中国は国を挙げてデジタル化や企業の国際競争力強化、そして軍拡と、中央集権を効果的に成果に結びつけた一方で、一党独裁による弊害や国民の自由への制限などが世界のリーダーとなる足枷であろうとの指摘を免れなかった。ところが新型コロナウイルス禍においては、いろいろ批判もあるだろうが、拡大阻止のための強力な管理能力、必要資材の迅速な調達等、権力集中されていることの利点も大きかったことは事実であろう。それゆえ新型コロナ後世界では、近未来に中国が米国に匹敵する、あるいは凌駕する、次の世界指導者として認知されるかどうかにかかわらず世界の関心は集まるだろう。

我々自由主義社会に生きるものとして、最後に優劣を決めるのはその社会が有している自由な活力と自己矯正力と信じてきたのであるが、それが揺らぎ始めたのが今次の新型コロナ禍である。本邦における、高齢化、失業率低下、十分過ぎる社会保障、デフレ、野党の弱体化と裏返しの政治的安定は異常な現状肯定。現状安住意識を醸成し、メディアまたそれを追随している。足元の現実とは全く違っていて、経済成長率、生産性、教育、企業競争力、デジタル化のスピード、どれをとっても先進国最下位に転落してしまった。長期的には円が強くなりようもないのだが、もし我が国が今後世界的なプレゼンスを復活させようとするならば、世界にアピールできる何らかの強さを身に着けるためにある程度の権力の集中を甘受しなければいけないのだろうか。(加藤)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	牛島	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
山口	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	小林
ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
6	14



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。